



兵庫医科大学病院
耳鼻咽喉科・頭頸部外科
言語聴覚士
矢崎 牧

聴覚リハビリにテーマ別レッスン・キットを使用している言語聴覚士の経験談

今回は、聴覚障害ケア分野で13年近くの経験を持つオーディオロジストの矢崎牧（やざき まき）さんからお話を聞くことができることを光栄に思います。矢崎さんは、私たちが提供している「テーマ別レッスン・キット」（以下、レッスン・キット）のブログに、去る4月にコメントを投稿してくれました。よって、私たちのレッスン・キットをどのように使っているのか直接的な経験を伺いたくお話を伺うことになりました。矢崎さんは、それぞれのレッスン・キットを最大限に生かすためにおもちゃや実物を課題に取り入れておられます。また、レッスン・キットをどのように発展させ活用したらいいのか、想像力豊かなすばらしいヒントをもっておられます。

「レッスン・キット」について聞くのは、初めてですか？メドエル社は、新しいレッスン・キットを毎月ご紹介しています。これら包括的なレッスン・キットは、いつでもだれでも無料でダウンロードできます。ブログ記事の最後に、過去のレッスン・キットが見られるようにリンクを掲載していますのでご覧ください。

オーディオロジスト・言語聴覚士など各種リハビリ専門家やその他難聴児と関わる専門家向けのリソースを提供するため、私たちはこれらのレッスン・キットを作成しました。

各レッスン・キットには、リスニング、発話・言語、認知の項目ごとに目標を設定した活動内容が書かれてあります。各レッスン・キットは目標、使い方の説明、レッスンプラン、印刷可能なイラスト教材が40～80ページの長さにとらめられています。各レッスン・キットは、始めに詳しい使い方が説明されています。また、各レッスンプランのカギとなる要点以外にも、リスニング目標、発話・言語目標、認識または「心の理論」目標が詳しく書かれています。

レッスン・キットには、どの言語でも使用できるイラスト教材が含まれていますので、どんな言語にも適用して使用することができます。矢崎さんは、教材を日本の子どもにも使えるようにしておられ、どのように使っているかお話ししてくれました。

矢崎さんは、ブリティッシュ・コロンビア大学の言語聴覚士養成大学院を卒業し、カナダのオーディオロジストの資格もっています。カナダでしばらくオーディオロジストとして働いたあと、現在は兵庫医科大学病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科の言語聴覚士として働いています。

では、私たちが作ったレッスン・キットを人工内耳ハビリテーションの臨床にどのように役立てているか矢崎さんにお話を伺ってみましょう。

言語聴覚士の視点からみたレッスン・キット

私は、幅広い年齢の患者さんに接し、人工内耳のマッピングとリハビリテーションに携わっています。子どもの場合は、行動反応を元にした聴力検査を手伝うこと以外に、ASSR、ABR、OAE検査も行っております。

私がメドエル社の専門家ブログとレッスン・キットを見つけたのは、メドエル社のレベッカ・クラリッジさんが教えてくれたことがきっかけになっています。レベッカさんは、その時AVTワークショップのために、2017年の夏に名古屋に来られてゲストスピーカーとして参加されておられ、どんな人でも無料でダウンロードできる教材があると紹介してくれました。

私はその時から、レッスン・キットをずっと使っています。どんな人でも無料で手に入れることができるのはありがたいです。ご両親にも気兼ねなく案内でき、ご両親が同じ教材をダウンロードして使うことができます。

インタラクティブなリハビリ課題

レッスン・キットの説明を読むことで、子どもに何をすればいいのかアイデアをもらうことができますし、新しい課題を思いつくことができます。毎月、キットに出てくるすべての課題を子どもにするわけではありませんが、キットに説明されている課題の中から楽しそうで、子どもにできそうな課題を選んでいきます。

私がみている子どもは、レベル1か2の子どもが多いので、このレベルの子どもたちに使うことが多いです。レベル3の子どもをみることは少ないのですが、このようなレベルの子どもでもキットの課題を楽しんで取り組んでいるように見えます。幼い子どもには、「Go Fish」のようなカードゲームは多少難しいのか途中で興味を失いやすいです。小さい子どもは、カードゲームや絵カードよりも立体的なおもちゃを使って遊ぶ方がより良いと思います。よって、小さい子どもには、できる限り、絵カードの代わりに立体的なおもちゃを使うようにしています。

レッスン・キットの使い方の1例をあげます。果物と野菜というテーマのレッスン・キットからは、果物と野菜の絵カードを印刷してラミネートし、マグネットをそれぞれ付けました。レベル1の子どもにはマグネットのついている釣り竿を使ってカードを釣ってもらいます。釣った絵カードが何かを覚えてもらい、仕分けしながら容器に入れてもらいます。例えば、バナナの絵カードを釣ったあとは、「バナナが釣れたね！バナナのバスケットに入れよう！」という具合です。

レベル2の子どもには、2枚の絵カードを釣ってもらい、何が釣れたか覚えてもらったあと、マグネットがつく壁にカテゴリ別（「野菜」と「果物」）に貼ってってもらいます。すべての絵カードをみんなで順番に釣ったあと、「りんごは、いくつあるかな？」と聞いて、りんごの数を数えてもらったりします。

いくつか難点もあります。レッスン・キットによっては、日本語の文化にそのまま使えないものもあります。例えば、レッスン・キット17「サメとクジラ」に出てくる課題は、英語と日本語のカテゴリ名や概念が違うためにそのままでは使えません。

例えば、英語ならば「靴、ズボン、帽子」をclothingというカテゴリに分類することができます。「サメとクジラ」の課題では、このclothingというカテゴリ名で物を分類しています。ただし、日本語ではこれらの語彙を一つのカテゴリに分類することが難しくなります。課題に出てくる英語の歌やライムも、日本語で同じようなものを探せばいいのですが、それが難しい時がよくあります。

複数の感覚への働きかけ

レッスン・キット1に出てくる「家作り」やキット2に出てくる「シェフの帽子づくり」などは、やりとりしながら子どもが楽しくできる課題です。子どもは、手や他の感覚を使いながら学ぶことが楽しいようです。

例えば、レッスン・キット2をレベル2の子ども用に使った時は、「動作語サイコロ（切る、洗う、焼く）」と「食べ物サイコロ（にんじん、トマト、かぼちゃ、他）」を2個同時に振ってもらいました。サイコロを振ってから、サイコロで出てきた食べ物のおもちゃを選んで、「動作語サイコロ」で出てきた動作をするために、水の入った容器で洗ったり、切ったり、焼いたりしました。

レッスン・キット8「顔と手」の課題2の場合も同様です。くまのぬいぐるみがどれだけ柔らかいかはぬいぐるみの描かれた絵カードだけでは伝わりにくいので、「手で触って感じる」ことに集中できるように、本物のくまのぬいぐるみを袋の中に入れました。袋の中に何が入っているか触ってもらい、わかる場合は、当ててもらいました。難しそうな子どもには、ステップ・ダウンして何が入っているか目の前に置いてある絵カードから選択してもらいます。

オーディトリバーバル法のテクニックとして、中身が何かを見せる前に、聴覚刺激提示だけで聞いてもらい、最初に視覚情報は排除しています。「何かくだものが入っているよ」といいながら、袋に入った本物のバナナやリンゴを子どもたちに触ってもらい、においをかいでもらいます。子どもの前で、親にも触ってもらい、どんな感じの物が入っているかを親のことばで説明してもらいます。「冷たくてつるつるしている」「甘いにおいがしている」「何が入っているのかな」といった具合です。そのあと、中に何が入っているかを出して確認しながら、再度教えた語彙や適切な文レベルを使いながら話します。

レッスン・キット2は、私の大好きなキットの一つです。子どもは、おままごなどのごっこ遊びが大好きです。あまりにも遊びに夢中になってしまうと、コントロールするのが難しくなりますが、遊びをゲームにしてみても、学習課題としてとり入れることができたらいいと思います。関わる言語聴覚士の工夫次第です。

新しいテクニックの学習

療育士の備考欄や目標として書かれていることは、とても為になります。なぜなら、課題が何を目的にしているのか、課題をどのように進めたらいいのか、一通り読んだらわかるからです。レッスン・キットに書かれていることを読むことで、課題に応用されているオーディトリバーバル法の方法やテクニックをたくさん学ぶこともできます。

書かれている方法を臨床で応用し、試行錯誤しながら学んでいくことができるのはすばらしいです。メドエル社のレッスン・キットの教材やアイデアのように、専門家の間で情報が共有できるようなコミュニティができたら嬉しいです。

矢崎さん、ありがとうございました！